

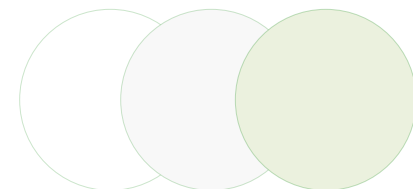


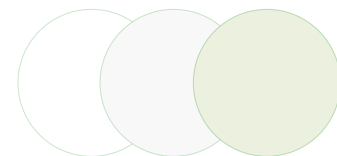
石狩市浜益区の公共交通に関する

アンケート調査集計結果速報について

【発注者】石狩市環境市民部

【受注者】日本データサービス株式会社





石狩市では、浜益区民の生活交通の確保・維持や地域活性化等の課題解決に向けた調査・検討を進めています。

その一環として、公共交通の使い方や住民ニーズを把握するため、アンケート調査を実施しました。

■調査対象：石狩市浜益区（一部厚田区で実施）

■調査期間：平成26年7月22日～8月26日

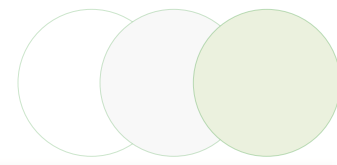
■配布数：726通（1通につき2票封入）

※町内会を通じて配布

■回収数：408通（593票）

■回収率：56.2%

2 アンケート調査項目



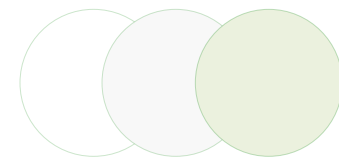
問1. あなたご自身のこと（個人属性）について
性別、年齢、職業、運転免許保有状況、将来の運転動向 など

問2. 浜益区内のバス交通について
主に利用するバス、利用回数、利用上困っていること など

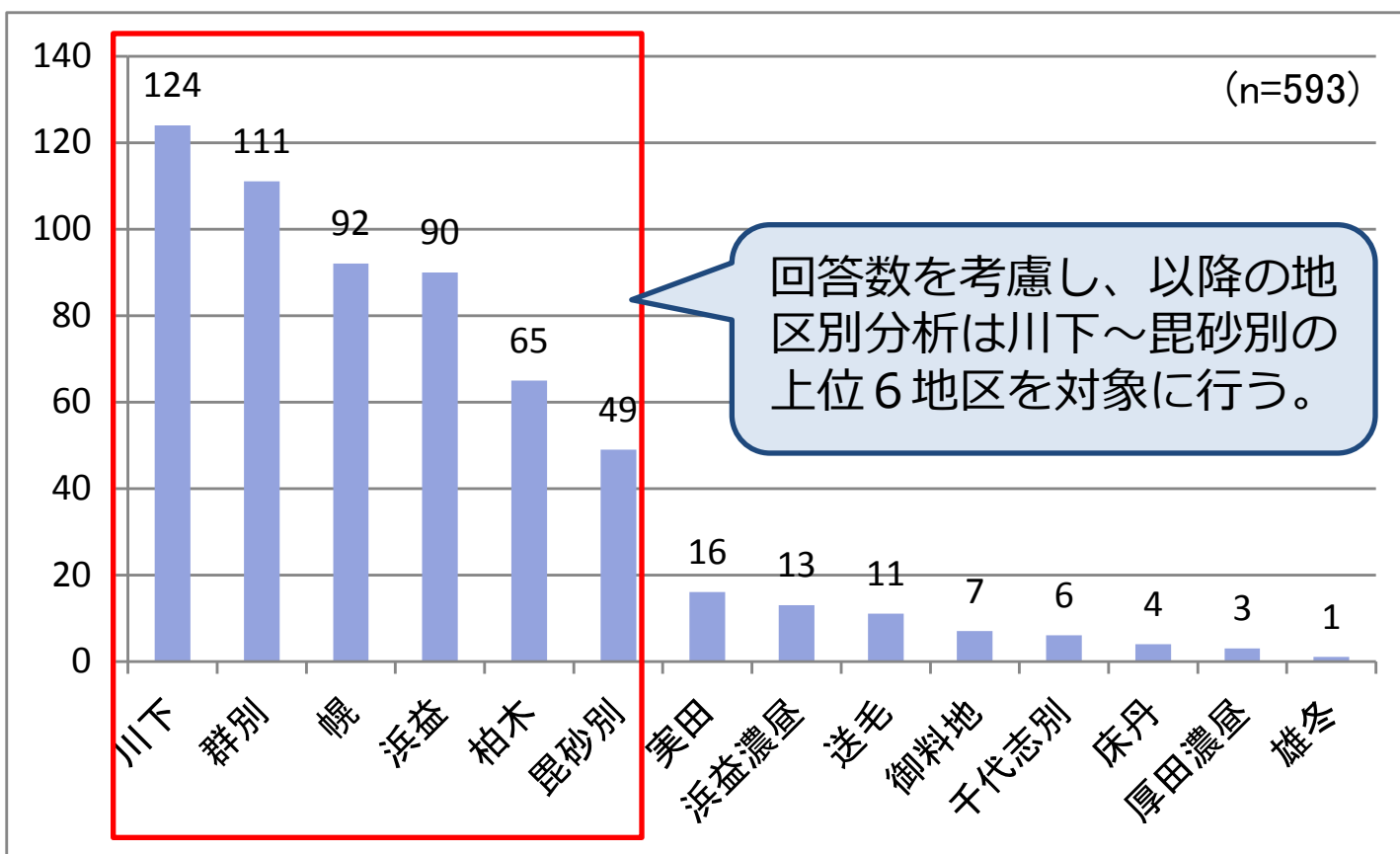
問3. 日頃の交通手段について
通勤・通学、買い物、通院の目的別交通手段、訪問頻度、施設の到着時間、滞在時間 など

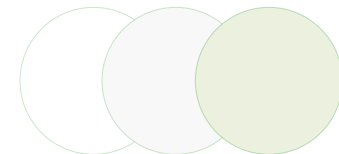
問4. 浜益区の今後の公共交通について
バスの必要性、コミュニティバスや予約運行型バス等新しい公共交通の利用意向、新しい公共交通導入による外出頻度の変化 など

問5. 公共交通のあり方に関する自由回答



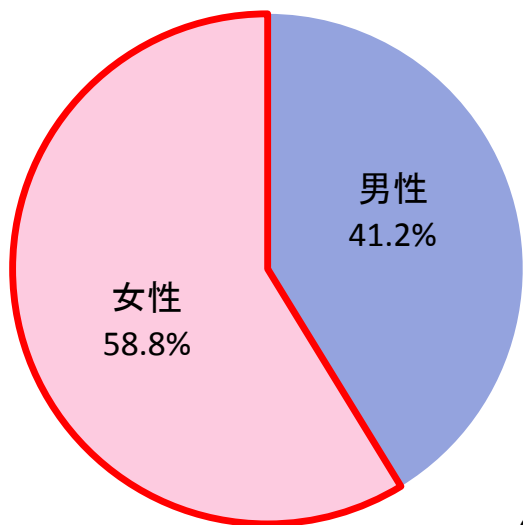
①地区別のアンケートの回収数では、川下が最も多く、次いで群別、幌、浜益となっている。





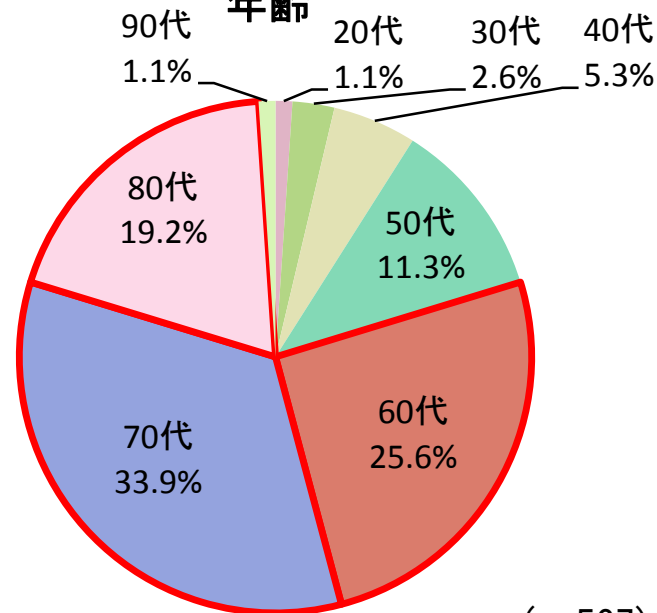
- ①性別は、『女性』が約6割と多くなっている。
②年代は、『60歳代以上の高齢者が約8割』を占めている。

性別

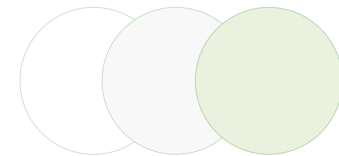


(n=577)

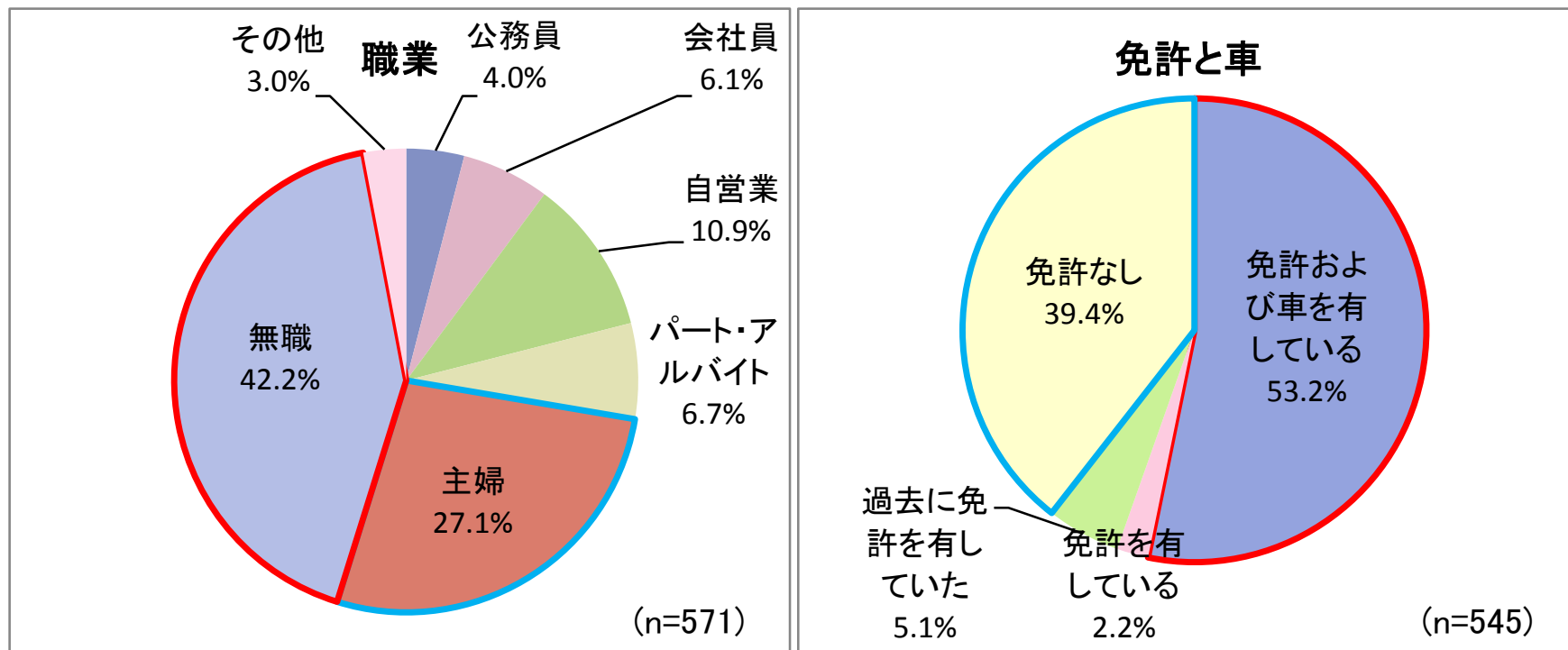
年齢



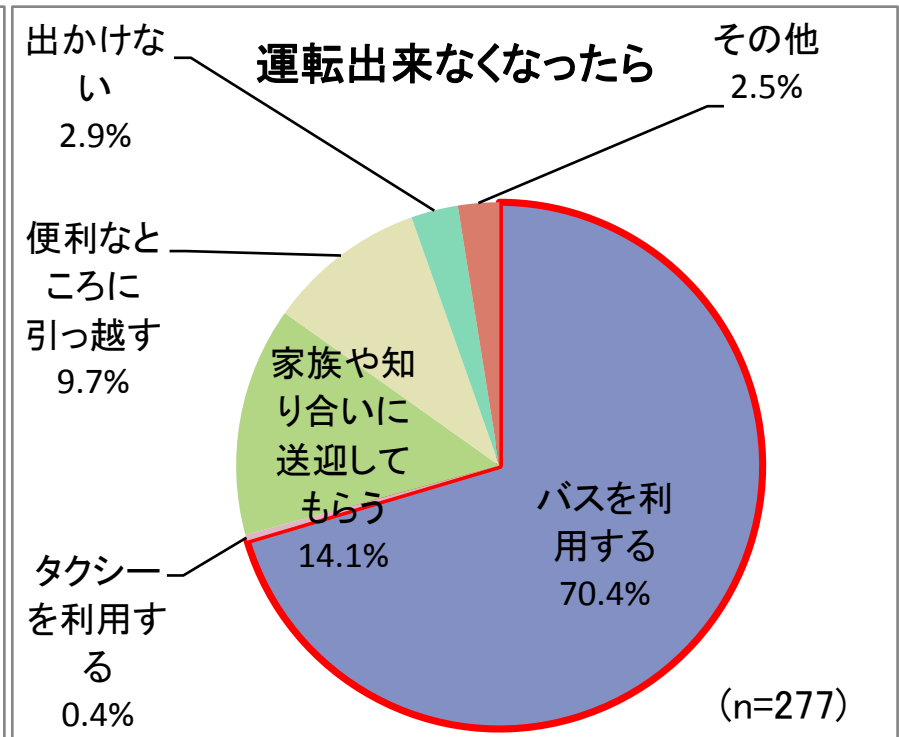
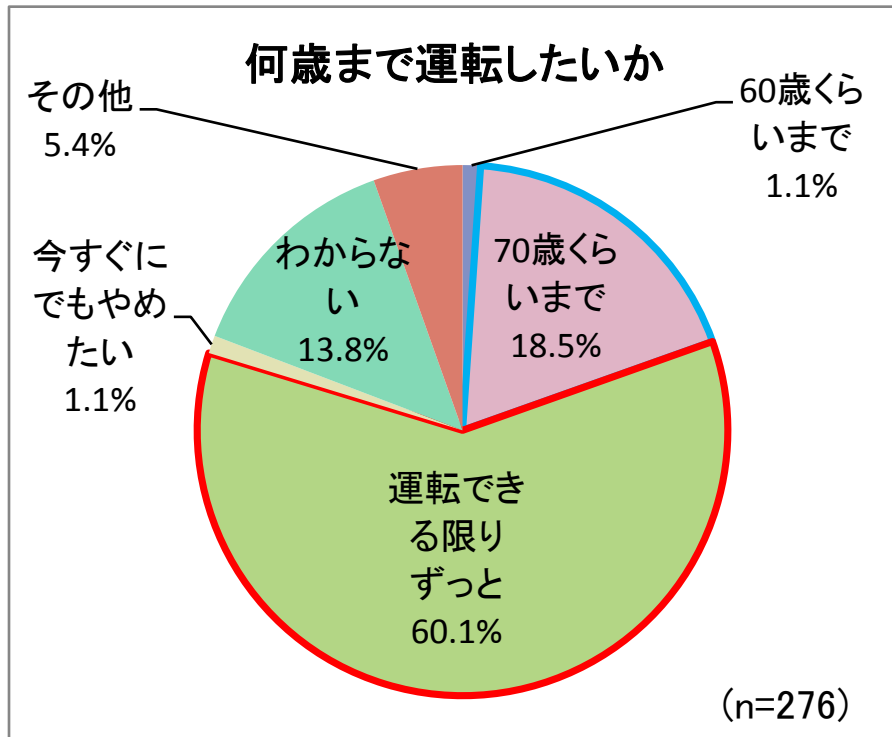
(n=567)



- ①職業は、『無職』が約4割、『主婦』が約3割と多くなっている。
- ②免許と車の保有状況は、『免許および車を有している』の回答が約5割となっている。次いで、『免許なし』が約4割を占めている。

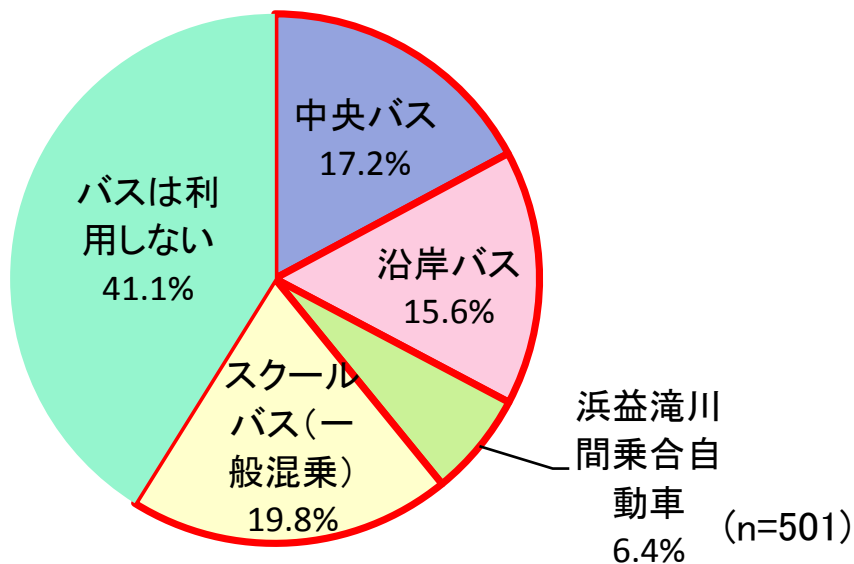


- ①将来の運転意向は、『**運転できる限りずっと**』が**約6割**を占めている。次いで、**約2割**が『**70歳くらいまで**』にやめたいと回答している。
- ②自動車の運転ができなくなった場合、『**バスを利用する**』が**約7割**となっており、**バスによる日常生活の支援が重要**となっている。

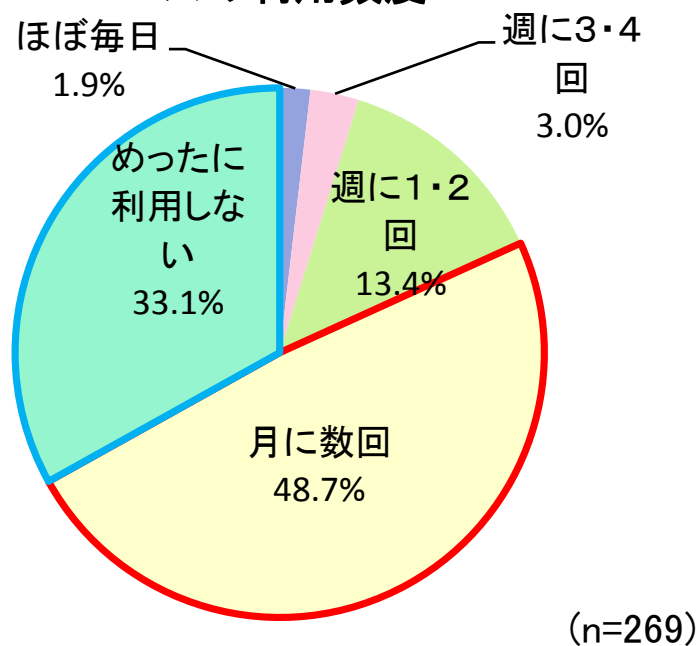


- ① 普段のバス利用は、**バスを利用する割合が約6割**となっている。とりわけ、『**スクールバス(一般混乗)**』の割合は**約2割**となっている。
- ② バスの利用頻度は、**月に数回が約5割**と最も多く、次いでめったに利用しないとなっている。

普段利用するバス



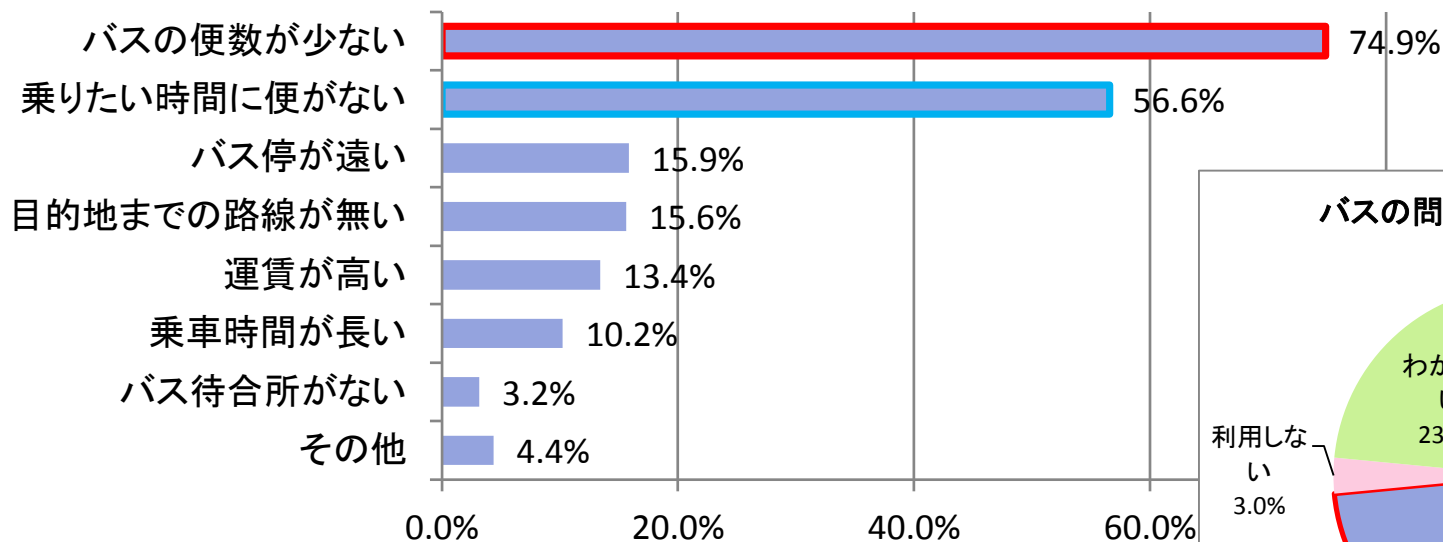
バスの利用頻度



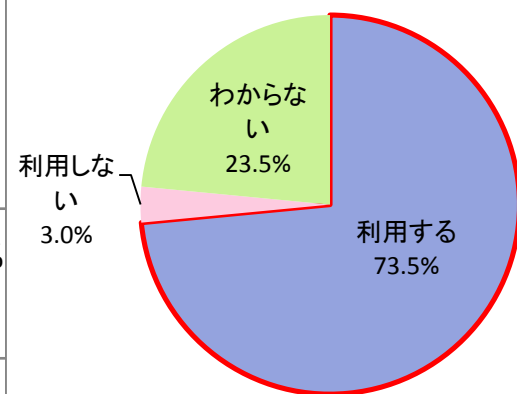
- ①バスで困っていることは、『**バスの便数が少ない**』、『**乗りたい時間に便がない**』がともに**5割以上**となっている。
- ②さらに問題点が解消された場合の利用意向では、『**利用する**』が約**7割**となっており、利用者ニーズに応じたバス交通の検討が望まれる。

バスで困っていること【複数回答-3つまで】

(n=410)

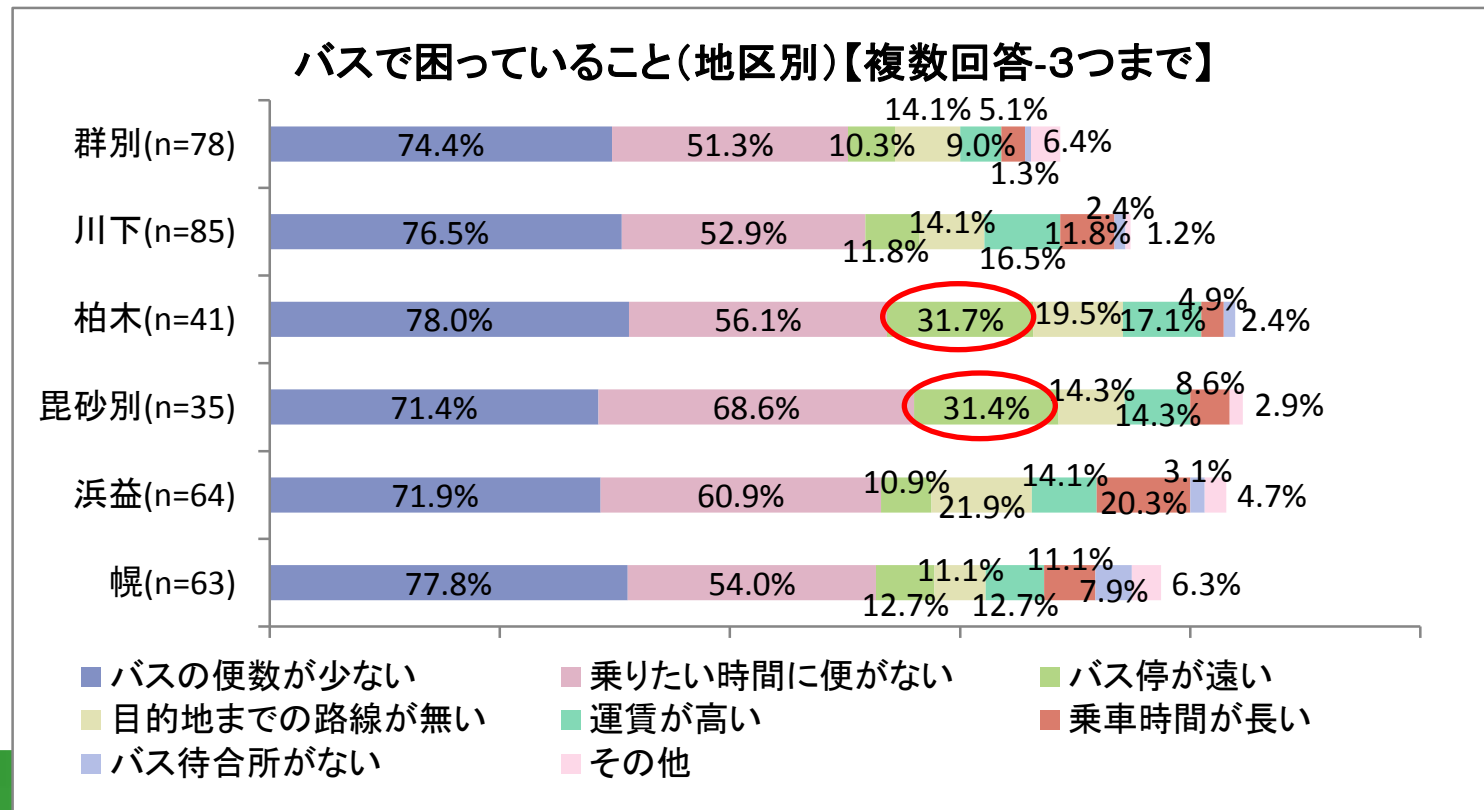


バスの問題点が改善されたら

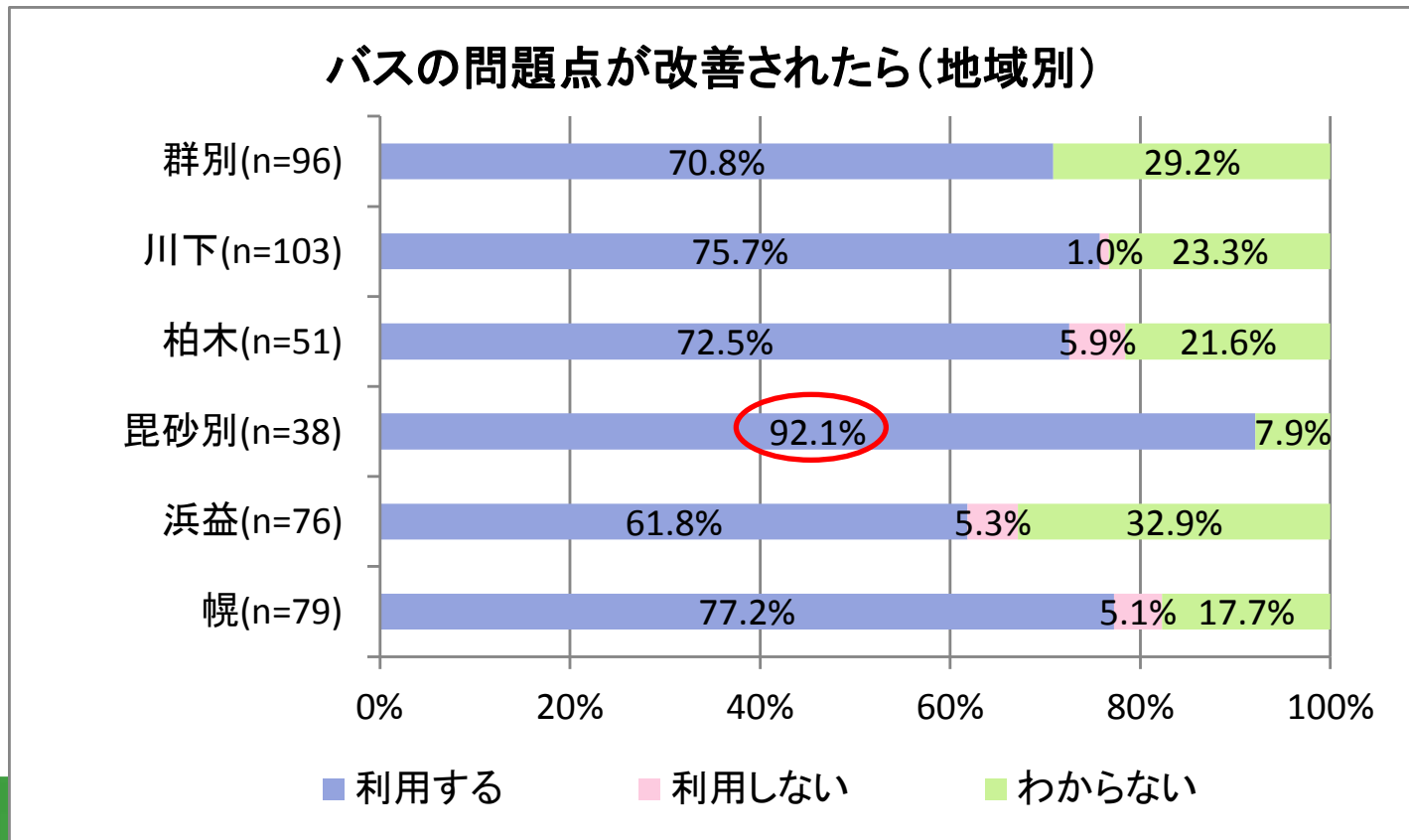


(n=494)

- ①バスで困っていることを地区別（群別、川下、柏木、毘砂別、浜益、幌）に整理すると、『**バスの便数が少ない**』、『**乗りたい時間に便がない**』がともに**5割以上**となっている。
- ②また、柏木、毘砂別は、『**バス停が遠い**』が他の地区と比較し、**多くなっている**。

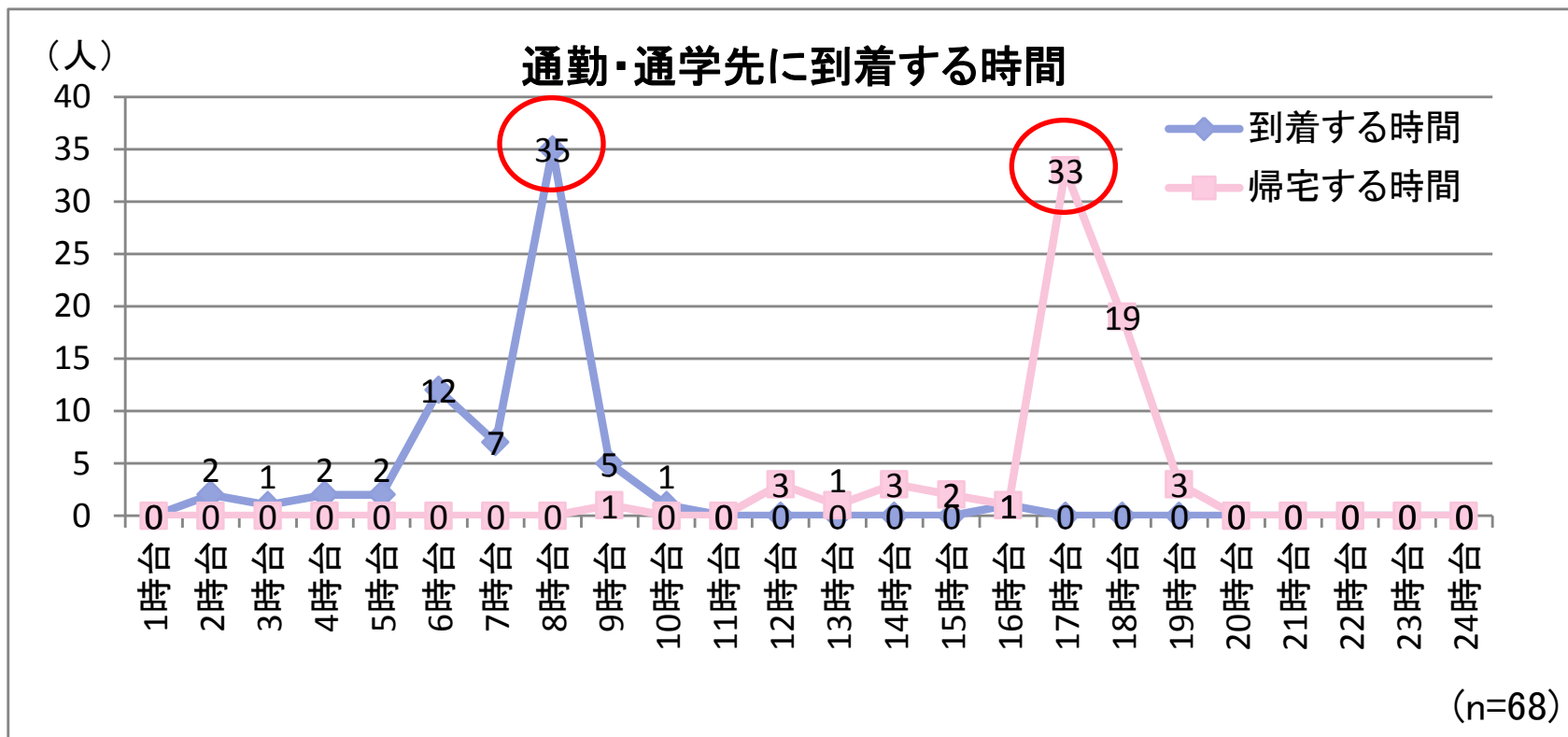


- ①バスの問題点が改善された場合の利用意向を地区別にみると、**分析対象(群別、川下、柏木、毘砂別、浜益、幌)の全地区で『利用する』が6割以上**となっている。
- ②特に**毘砂別は、『利用する』が9割以上**となっている。



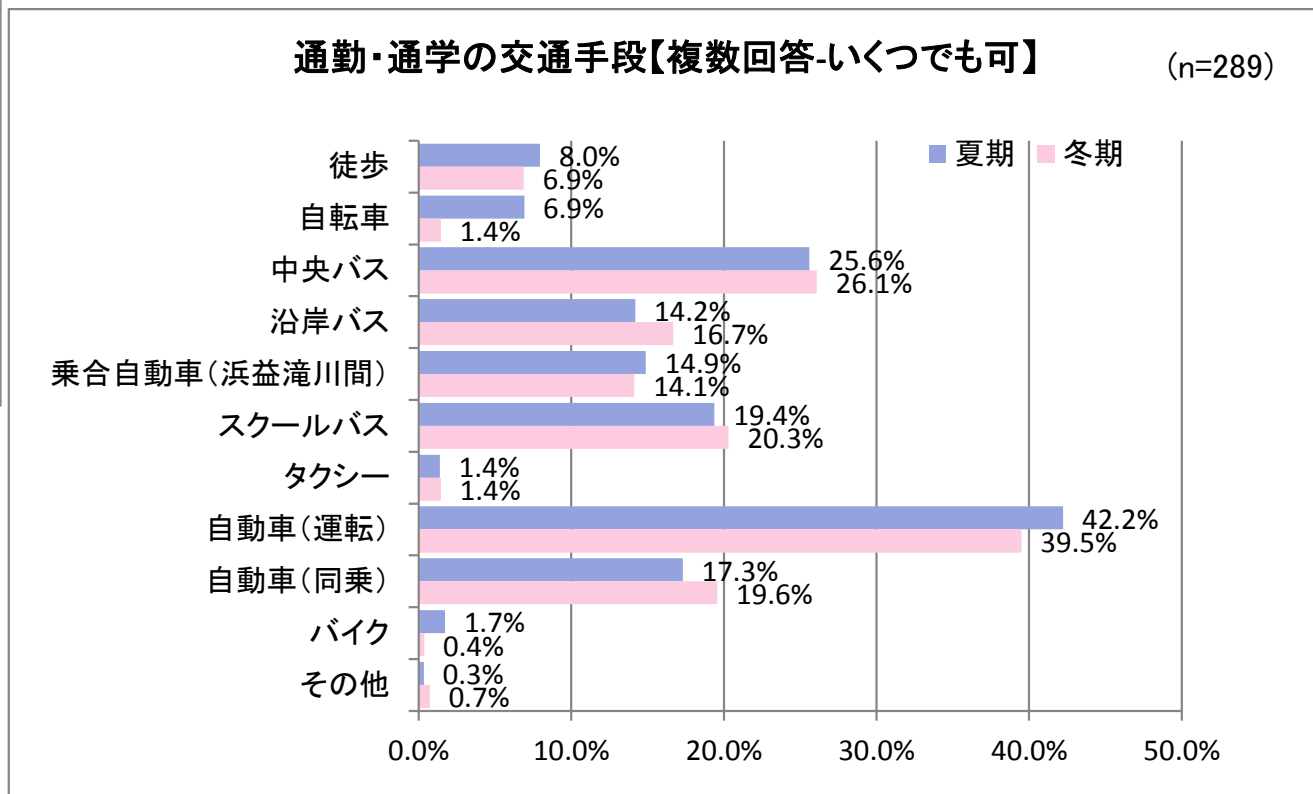
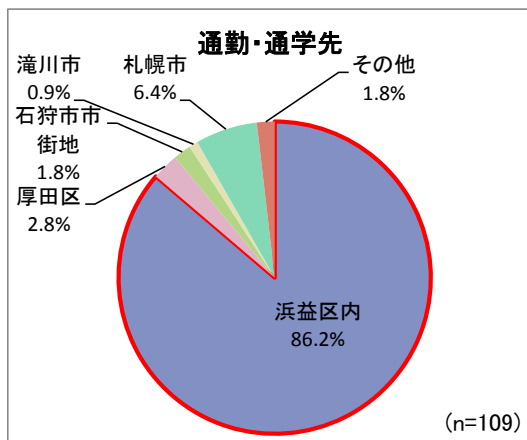
5 通勤・通学について

- ①通勤・通学の到着する時間は『8時台』が最も多い。
- ②また、帰宅する時間は『17時台』が多くなっている。

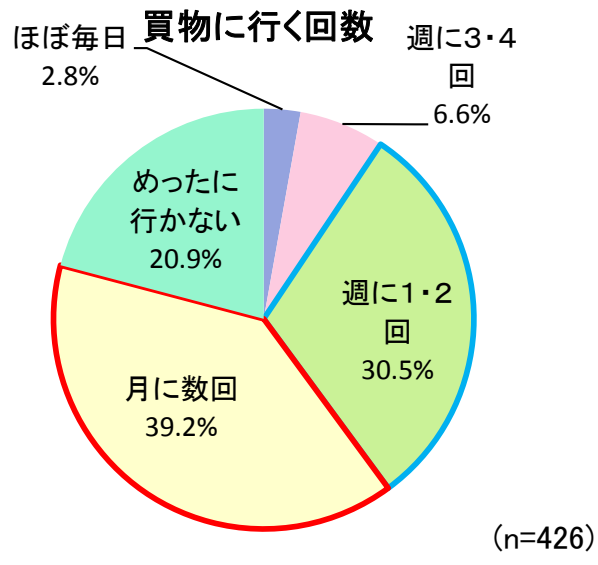


5 通勤・通学について

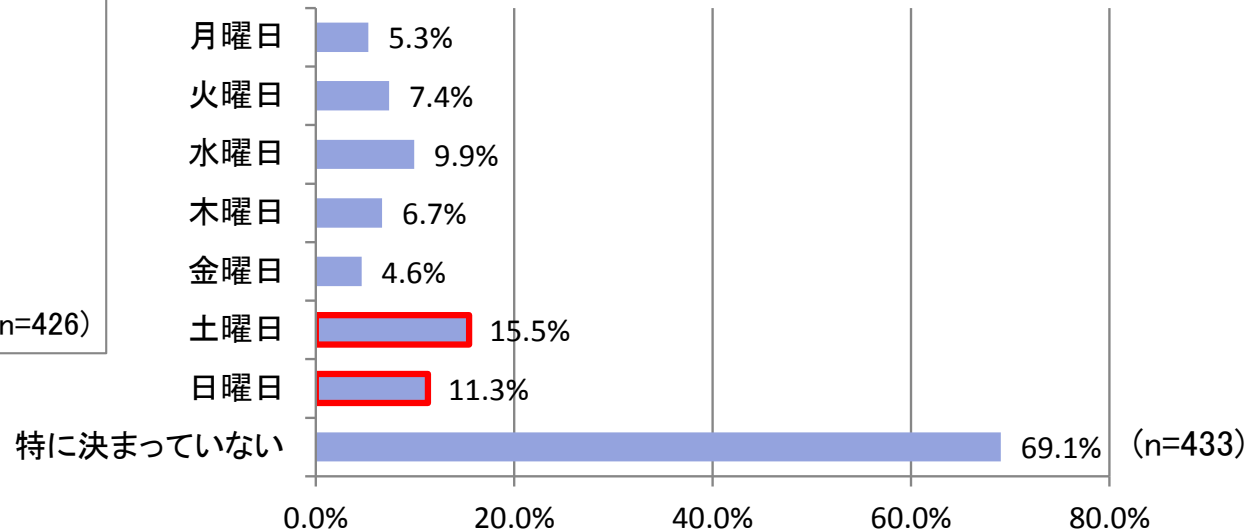
- ①通勤・通学先は**浜益区内が約9割**を占めている。
- ②バス交通（中央バス、沿岸バス、乗合自動車、スクールバス）に着目すると、『**中央バス**』の利用が夏・冬ともに約3割、次いで『**スクールバス**』の利用が約2割となっている。



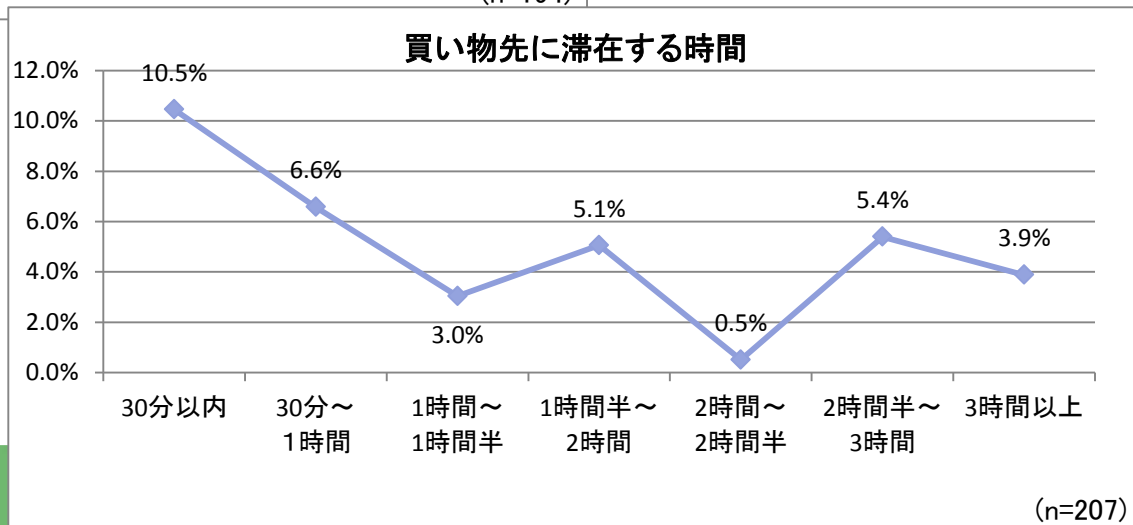
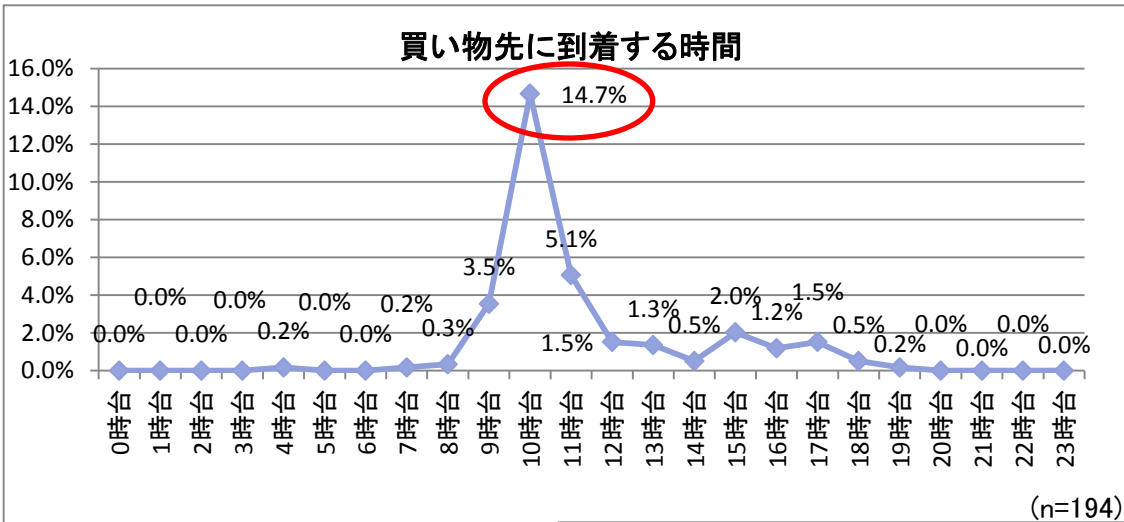
- ①買い物頻度は『月に数回』、『週に1・2回』が多くなっている。
- ②買い物に曜日については、土日に買物に行っている傾向があり、平日では水曜日に買物に行く傾向である。



買い物に行く曜日【複数回答-いくつでも可】

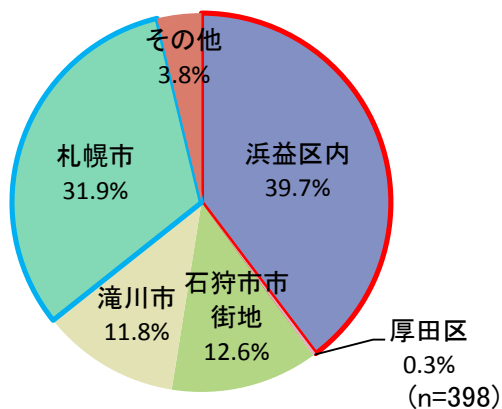


- ① 買い物先に**到着する時間帯は『10時台』**が最も多くなっている。
- ② 買い物施設での**滞在時間については、『30分以内』が最も多い。**



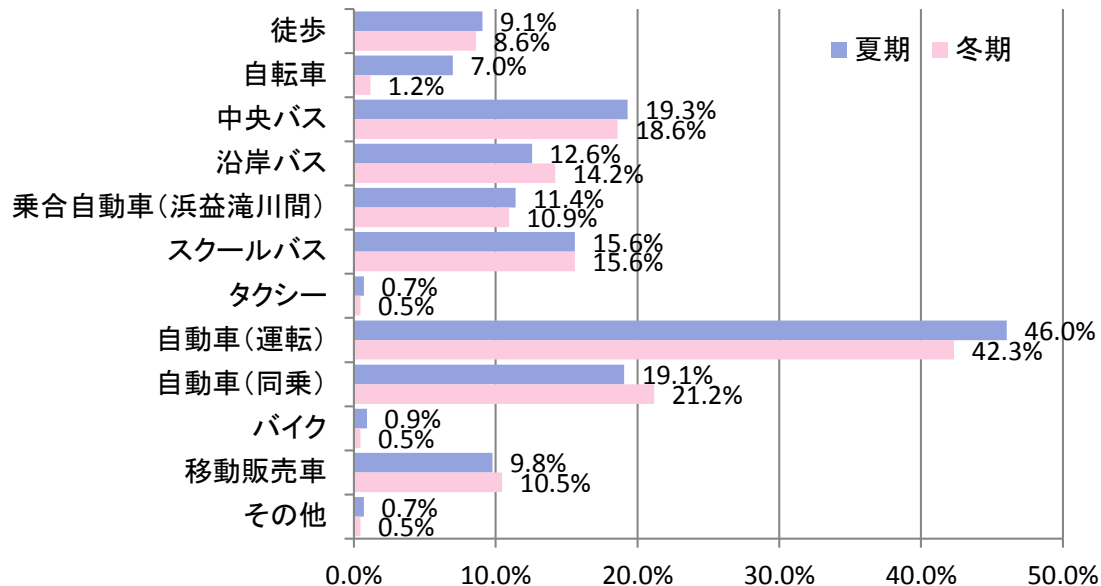
- ①よく利用する買い物場所は、**浜益区内が約4割、札幌市が約3割**となっており、この2地域が主要な買い物場所となっている。
- ②買い物の交通手段は、自動車（運転、同乗）が最も多い。**次いでバス交通（中央バス、沿岸バス、乗合自動車、スクールバス）が多く**なっている。

良く利用する買い物場所



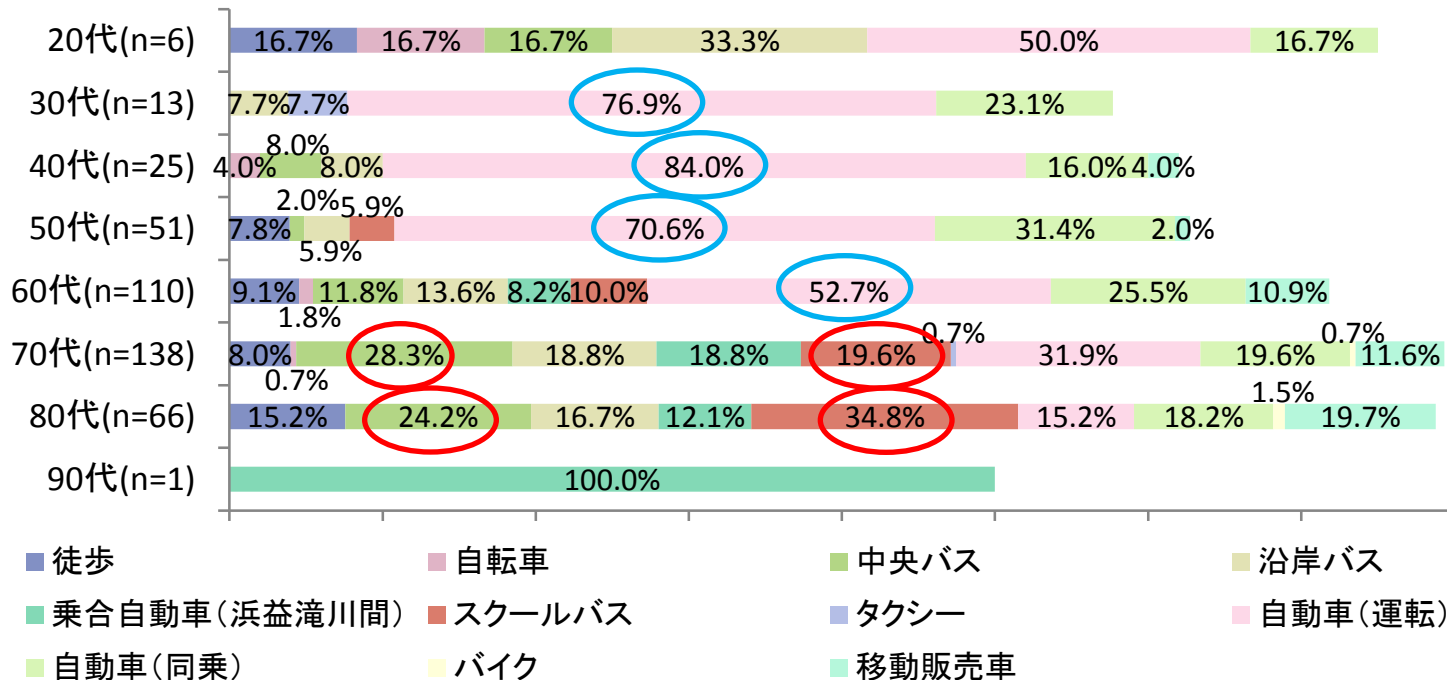
買い物の交通手段【複数回答-いくつでも可】

(n=430)

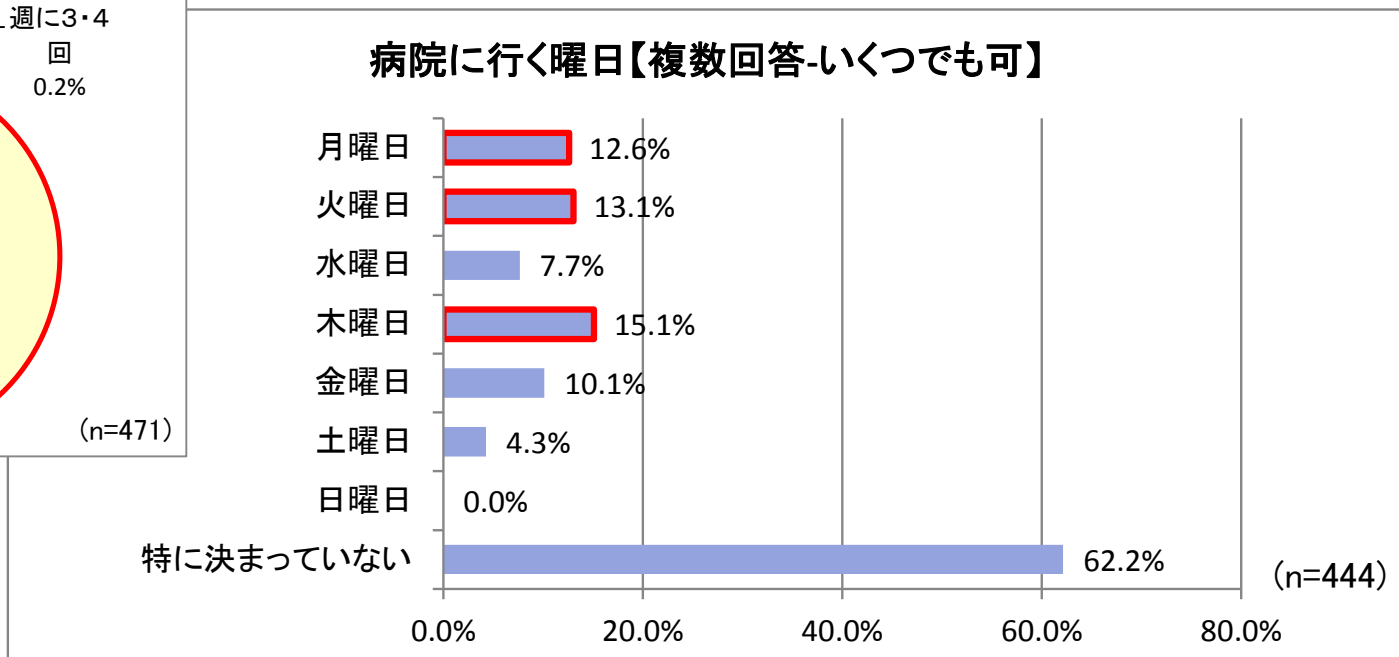
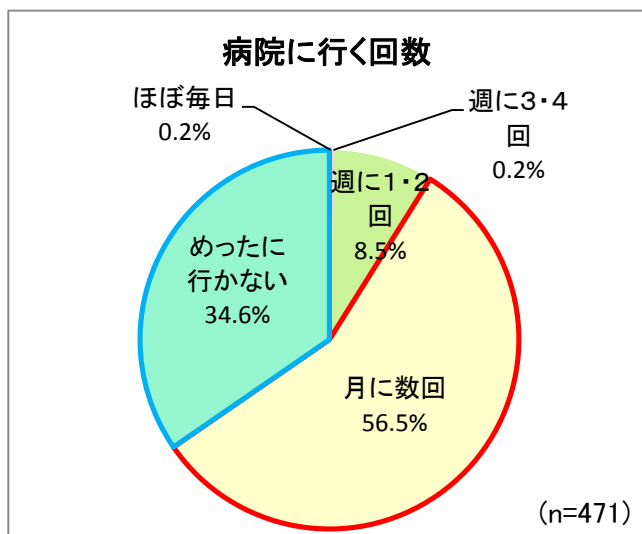


- ① 買物交通手段を年齢別にみると、30代～60代は、『自動車（運転）』が最も多くなっているが、70代～80代は『スクールバス』の利用や『中央バス』等のバス交通の利用が多くなっている。
- ② **高齢になるほど、自動車から公共交通への転換**がみられる。

買い物の交通手段(地区別)【複数回答-いくつでも可】

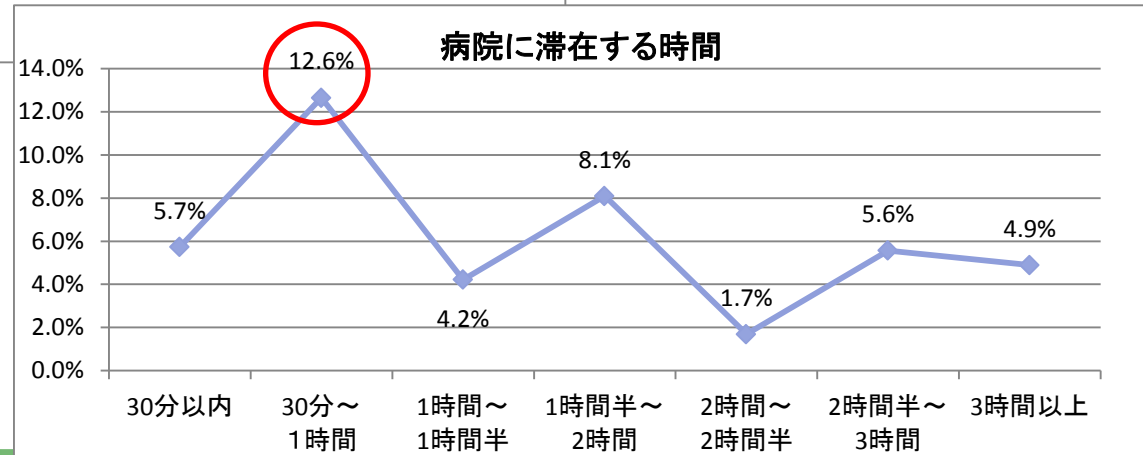
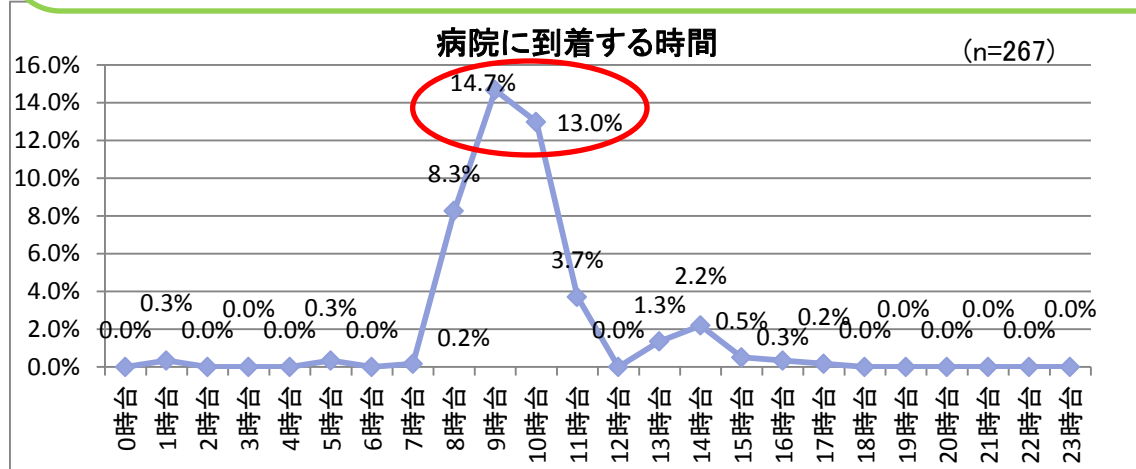


- ①病院に行く頻度は『月に数回』が約6割を占めており、次いでめったに行かないが約3割である。
- ②病院に行く曜日は、『月曜日』、『火曜日』、『木曜日』が多くなっている。



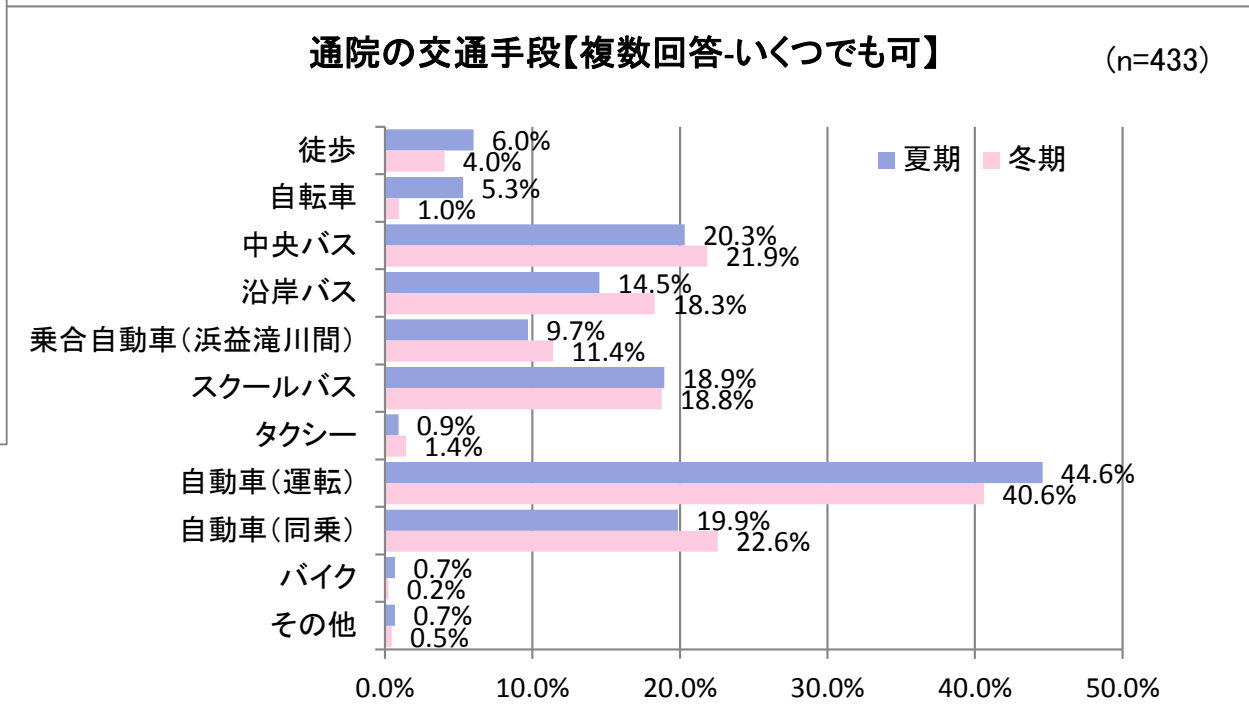
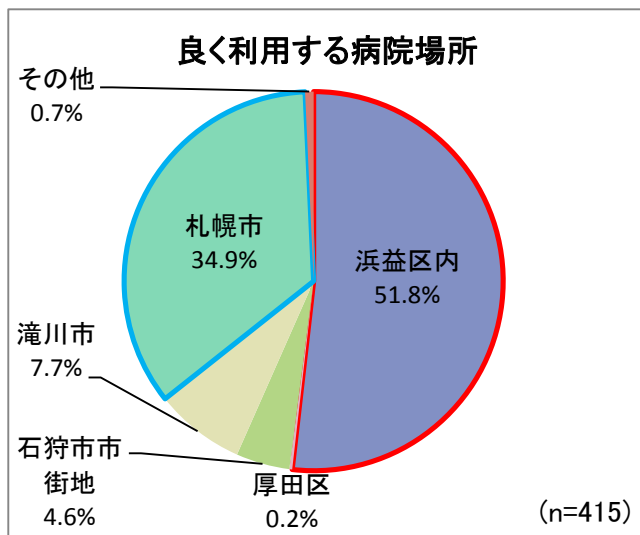
7 通院について

- ① 病院に**到着する時間は『9時台』**が最も多く、**次いで『10時台』**となっている。
- ② 病院に**滞在する時間は『30分～1時間』**が最も多くなっている。



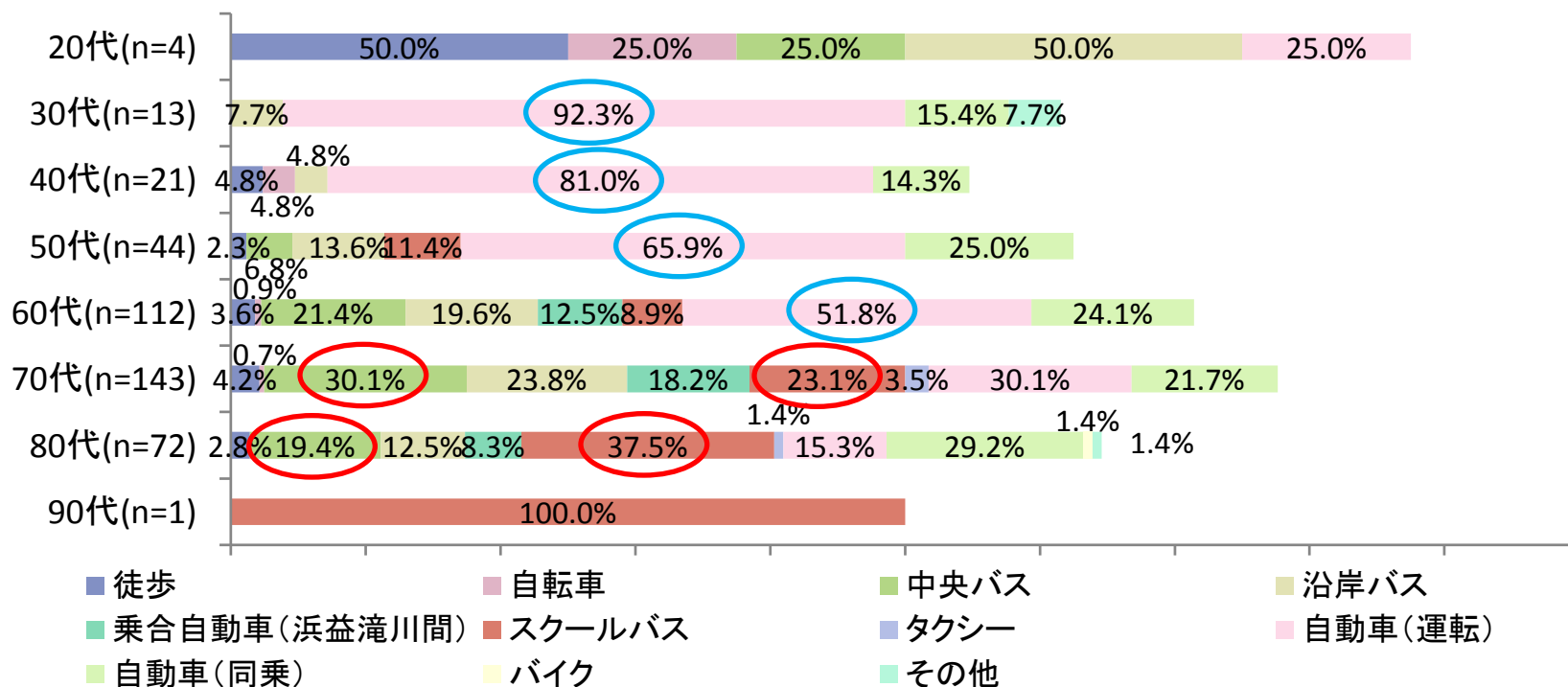
7 通院について

- ①よく利用する病院は、『**浜益区内**』が約5割、『**札幌市**』が約3割となっており、買い物と比較すると地域内の通院が中心になっている。
- ②通院時の交通手段をバス交通に着目すると、『**買い物時と比較して、バス交通の利用が多くなっている。**』

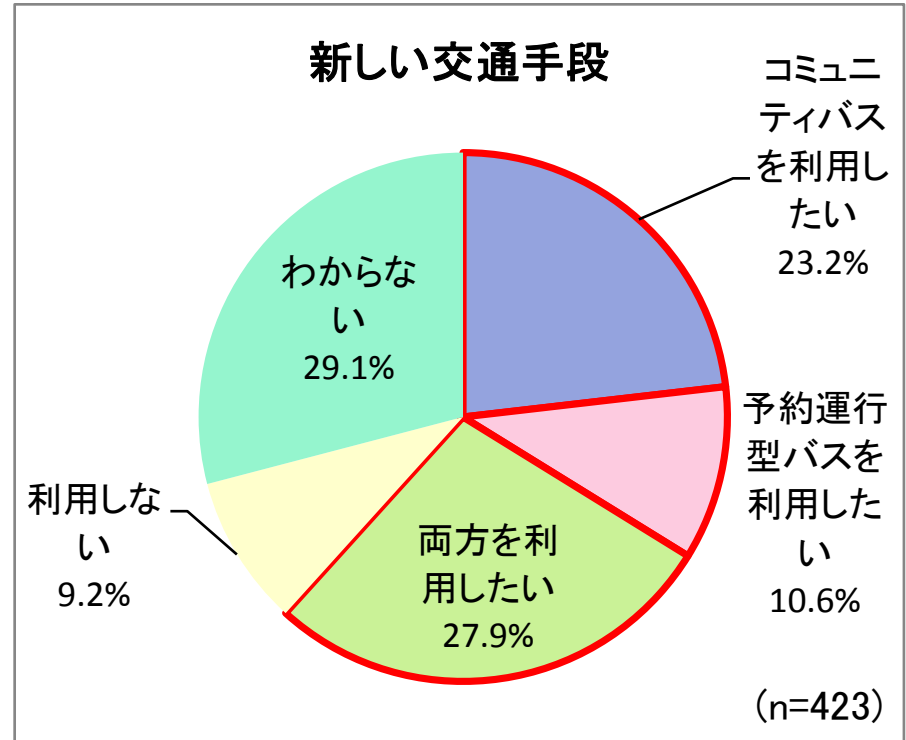
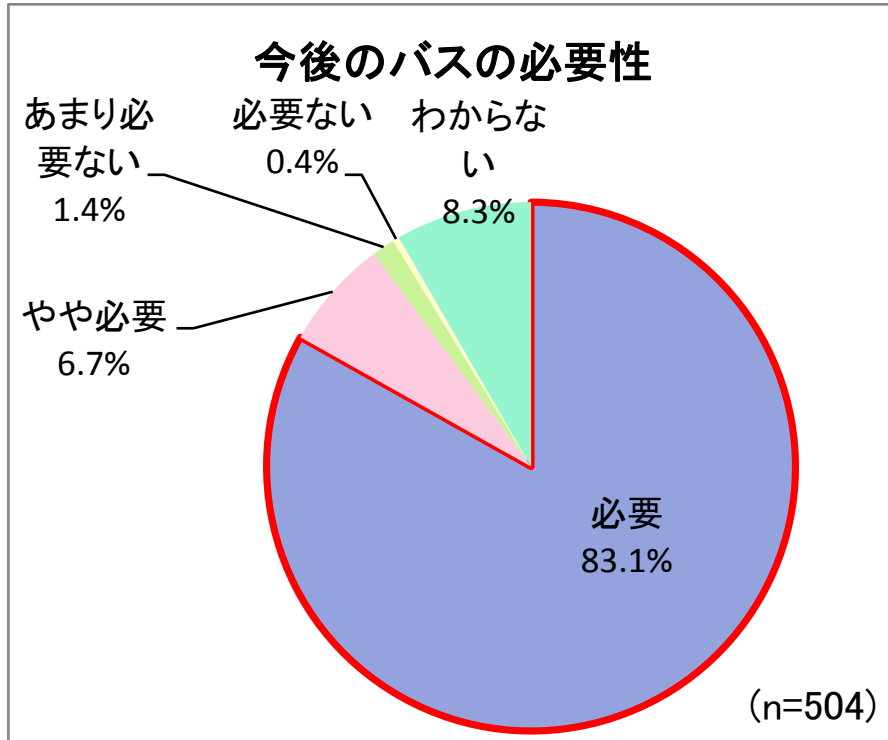


- ①通院交通においても、30代～60代までは『自動車（運転）』が最も多くなっているが、70代～80代は『スクールバス』や『中央バス』等のバス交通が多くなっている。
- ② **高齢になるほど、自動車から公共交通への転換**がみられる。

通院の交通手段(地区別)【複数回答-いくつでも可】

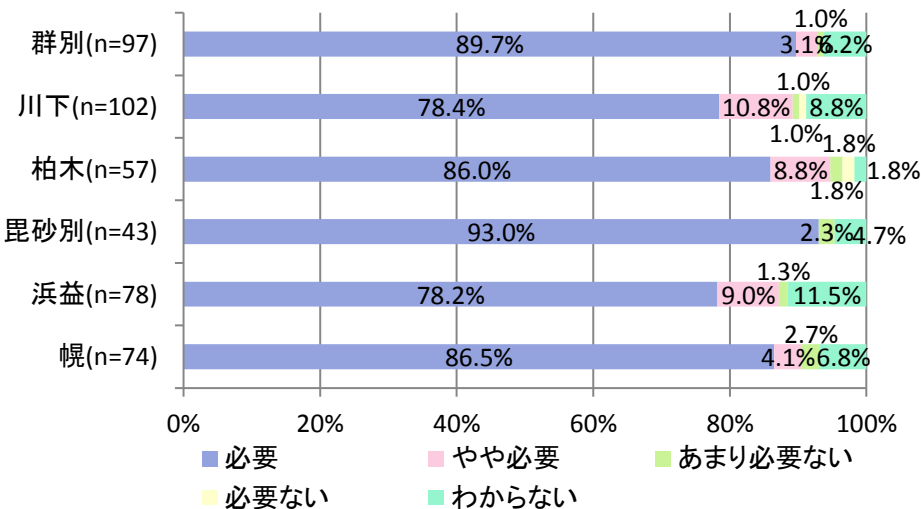


- ①今後のバスの必要性については、**約8割が『必要』**と回答している。
- ②コミュニティバスや予約運行型バス等の新しい交通手段に対する利用意向は約6割であり、**『両方を利用したい』が約3割、『コミュニティバスを利用したい』が約2割**となっている。

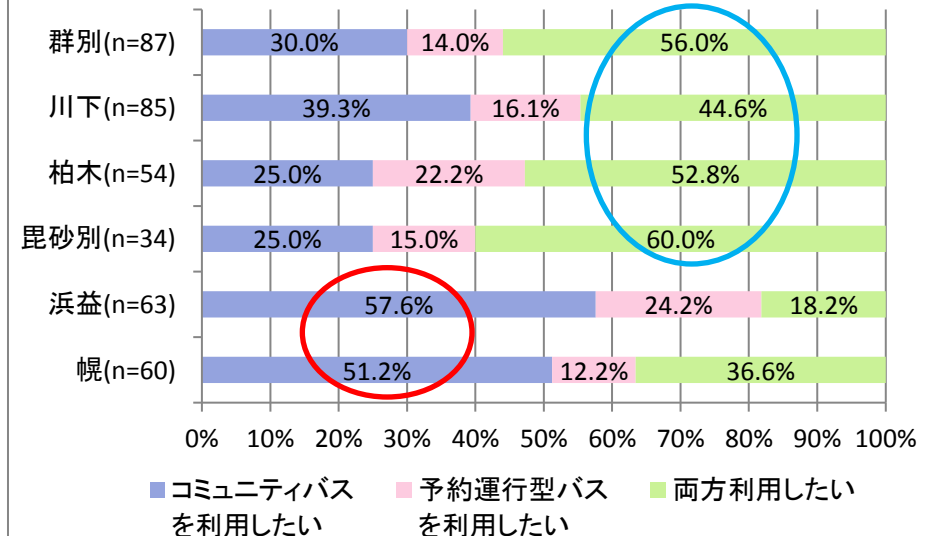


- ①今後のバスの必要性について地区別にみると、**分析対象の全地区で7割以上が『必要』**となっており、**群別、柏木、昆砂別、幌では『必要』の割合が約9割**となっている。
- ②浜益や幌は、『コミュニティバスを利用したい』の割合が5割以上となっているが、**その他の地区では、コミュニティバスと予約運行型バスを『両方を利用したい』が最も多くなっている。**

今後のバスの必要性(地区別)

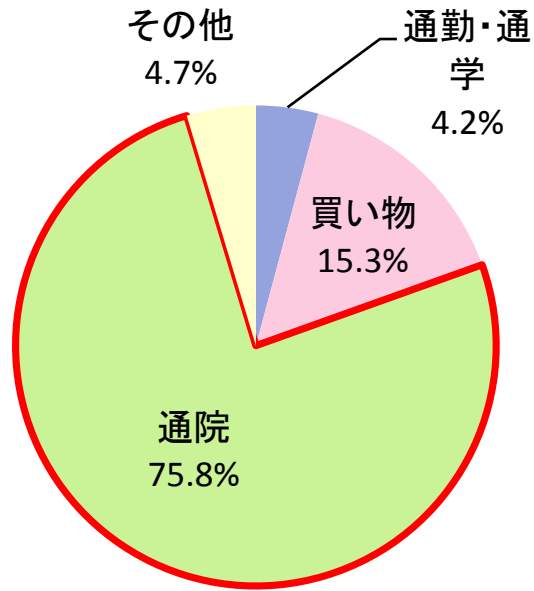


新しい交通手段(地区別)

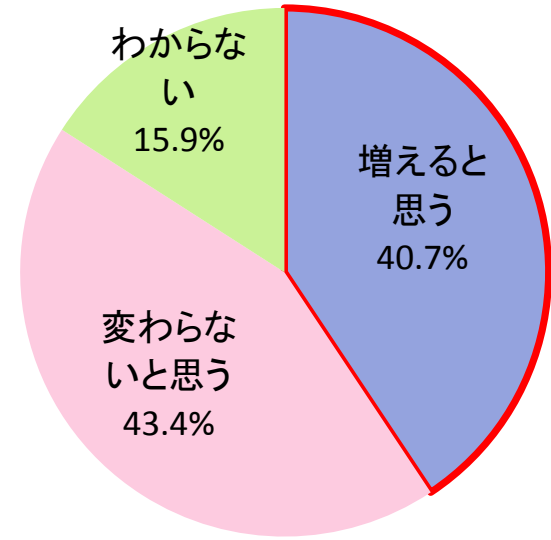


- ①新しい交通手段を利用する目的は**約8割が『通院』**となっている。
- ②利用回数の変化は**『増えると思う』が約4割**となっている。

新しい交通手段を利用する目的



利用回数の変化



約5割が『免許および車を有している』と回答している。

しかし、約2割が『70歳くらいまで』に運転をやめたいと回答している。

また、運転ができなくなった場合の交通手段は、『バスを利用する』と回答している。

バスで困っていることは『バスの便数が少ない』、『乗りたい時間に便がない』が多く、これらの問題点が解消された場合、バスを『利用する』割合が約7割となっている。

バスで困っていることを地区別に整理すると、分析対象全地区（群別、川下、柏木、毘砂別、浜益、幌）で『バスの便数が少ない』や『乗りたい時間に便がない』が5割以上となっている。

また、居住地に中央バス、沿岸バス路線がない柏木、毘砂別は上記の困っていることに加え、『バス停が遠い』が他の地区と比較し、多くなっている。



・住民ニーズに即し、日常生活を支援できる公共交通の構築が必要

10 アンケート集計結果のまとめ（2）

普段利用するバスは、『スクールバス（一般混乗）』が約2割、次いで『中央バス』が多くなっている。

また、高齢になるほど、自動車からバス交通へ転換している様子がうかがえ、今後の高齢化社会の進行を考慮すると、高齢者の生活交通の確保を検討することが重要となっている。

一方で、これらバス交通の利用頻度は、『月に数回』が最も多く、次いで『めったに利用しない』が多くなっている。

10 アンケート集計結果のまとめ（2）

今後のバスの必要性については、分析対象地区（群別、川下、柏木、毘砂別、浜益、幌）で『必要』が最も多くなっており、新しい公共交通手段などを含め、持続的に維持が可能な公共交通の再構築が求められている。

コミュニティバスや予約運行型バス等の新しい交通手段に対する利用意向は約6割であり、『コミュニティバスを利用したい』が約2割、『予約運行型バスを利用したい』が約1割となっている。

- 
- ・バス利用頻度などから区民のニーズを的確に捉えたきめ細かい公共交通の検討が必要

- ・ **住民ニーズに即し、日常生活を支援できる公共交通の構築が必要**

- ・ 地区別分析の対象地区（群別、川下、柏木、毘砂別、浜益、幌）では、利用時間帯に関して困っており（利用したい時間に運行していないから、便数が少なく感じる等）、買い物や通院等の生活交通の時間帯に即した運行が望まれる。

・バス利用頻度などから区民のニーズを的確に捉えたきめ細かい公共交通の検討が必要

- ・浜益区民の通勤・通学、買物、通院における交通手段は、生産年齢人口では『自動車（運転）』が最も多くなっている。一方で高齢者（70代、80代）の交通手段は、『スクールバス』や『中央バス』等のバス交通が多くなっており、高齢になるほど、自動車から公共交通への転換がみられる。
- ・したがって、今後の高齢化社会の進行を考慮した公共交通体系としては、高齢者の生活（買い物・通院）の支援という視点で検討することが必要である。
- ・その際、浜益区民の利用状況及び地域の交通特性を鑑みた公共交通を導入することが必要である。